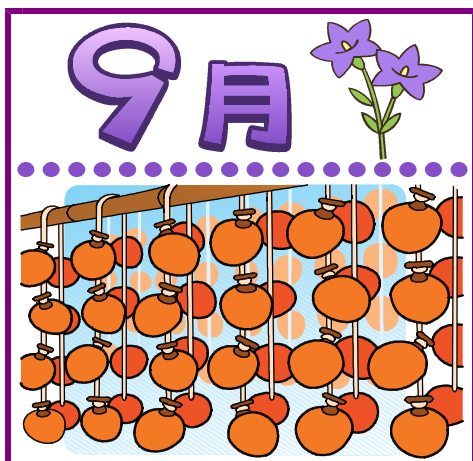


めぐみイエス・キリスト教会

2022年9月25日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第627号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【交読文】 No.23 詩篇第66篇 p. 897

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主と共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き19章32節～40節

【礼拝説教】 《町の書記官の仲裁》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き19章32節～40節(新約p. 275上段)

19:32 人々は、それぞれ違ったことを叫んでいた。実際、集会は混乱状態で、大多数の人たちは、何のために集まったのかさえ知らなかった。

19:33 群衆のうちのある者たちは、ユダヤ人たちが前に押し出したアレクサンドロに話すよう促した。そこで、彼は手振りで静かにさせてから、集まった会衆に弁明しようとした。

19:34 しかし、彼がユダヤ人だと分かると、みな一斉に声をあげ、「偉大なるかな、エペソ人のアルテミス」と二時間ほど叫び続けた。

19:35 そこで、町の書記官が群衆を静めて言った。「エペソの皆さん。エペソの町が、偉大な女神アルテミスと、天から下ったご神体との守護者であることを知らない人が、だれかいるでしょうか。

19:36 これらのことは否定できないことですから、皆さんは静かにして、決して無謀なことをしてはなりません。

19:37 皆さんは、この人たちをここに連れて来ましたが、彼らは神殿を汚した者でも、私たちの女神を冒瀆した者でもありません。

19:38 ですから、もしデメテリオと仲間の職人たちが、だれかに対して苦情があるなら、裁判も開かれるし地方総督たちもいることですから、互いに訴え出たらよいのです。

19:39 もし、あなたがたがこれ以上何かを要求するのなら、正式な集会で解決してもらうことになります。

19:40 今日の事件については、正当な理由がないのですから、騒乱罪に問われる恐れがあります。その点に関しては、私たちはこの騒動を弁護できません。」こう言って、その集まりを解散させた。

●ポイント1.「アレクサンドロ」とは？

※第Ⅰ テモテ1章19節～20節「紀元63年マケドニアにて」 (新約p.419)

1:19 ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にいました。

1:20 その中には、ヒメナイとアレクサンドロがいます。私は、神を冒瀆してはならないことを学ばせるため、彼らをサタンに引き渡しました。

※第Ⅱ テモテ4章14節「ローマにおける二回目の獄中にて」 (新約p.429)

4:14 銅細工人のアレクサンドロが私をひどく苦しめました。その行いに応じて、主が彼に報いられます。

●ポイント2.「町の書記官」とは？

エペソにあるアルテミス神殿に関して起った騒動を鎮めたのが書記官であった。書記官は、市議会を召集し、時として議長を務め、その決定を布告するエペソ第一の行政官であった。また、市当局とエペソにあるローマの州行政当局の間の連絡官も務めた。エペソの責任ある行政官として、彼は騒動を鎮めたのである。市の書記官の政治的地位の重要さは、同市から出た貨幣や碑文によって明らかである。彼は「アジア州の高官(アシアルケース)」の一人であった可能性がきわめて濃い。これは、アジア州の諸都市の一流の人々に与えられる称号であり、毎年開催される「ローマと皇帝」の州の祭礼の大祭司はこの人たちの中から選ばれた。

●ポイント3.「町の書記官の仲裁」から、私たちが学ぶものとは？

※ピリピ人への手紙4章8節「使徒パウロの勧めから」 (新約p.399下段)

◎先週の礼拝メッセージ【銀細工人デメテリオ】

《パウロは、自費でティラノの講堂を借りて、神の言葉を語りました、このことが、二年続いたので、アジア州に住むユダヤ人もギリシャ人も主の言葉を聞いたのです。そして、主はパウロを通して、み言葉に伴う力あるわざを行なわれ、エペソに大きなリバイバルが訪れました。

こうして、主イエスの言葉は力強く広まり、勢いを増して行きました。その頃に、「銀細工人デメテリオ」による騒乱が起こったのです。

エペソは、アルテミス信仰の総本山とも言える都市でした。特に、古代七不思議の一つとされるアルテミス神殿には、多くの参拝者や観光客が訪れていました。また、神殿の存在によって巨大な収益を得ていた多くの集団が存在し、ことに銀細工人組合は銀製の神殿とアルテミスの像を製作し莫大な利益を得ていたのです。福音が使徒パウロによってエペソに伝えられたことによって、当然この偶像産業との衝突が起こり、銀細工人デメテリオが同業者たちを扇動して暴動を引き起こしたのです。彼らは、パウロを捕らえようとしますが、その時パウロは不在であって、代わりにガイオとアリストアルコを劇場に連れて行ったのです。パウロは二人を救い出そうとして劇場に入ろうとしましたが、弟子たちや友人の役人たちによって引き留められました。

さて、ヨハネの手紙第Ⅲは、長老ヨハネがエペソからガイオに宛てて出したものですが、その中に次のような記事が書かれています。『デメテリオについては、すべての人たちが、また真理そのものが証ししています。私たちも証しします。私たちの証しが真実であることは、あなたも知っています。』と。聖書は明確にはしてはいませんが、銀細工人デメテリオと同一人物だと思われれます。この騒動から、かなりの年月を経て、彼は主イエスの恵みによって救われたのです。それだからこそ、ルカはあえてデメテリオの名前を書き記したのです。》

お知らせ

※10月2日(日)の礼拝は、鈴木師の精密検査が午前中に入った為、お休みとなります。次回は10月9日(日)の午前10時となります。